

科目名	生命科学特論Ⅰ			ナンバリング	852290	授業形態	講義
対象学年	1・2	開講時期	前期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	松本司	担当教員	村田 亮				

授業の概要	薬物の～および最新の薬剤学の概要を習得する。						
到達目標	薬物による生体機能の調節とその機序および製剤化と体内動態について、概説できる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)							
ディプロマポリシーとの 関連	【理工学研究科 物質理学専攻(修士課程)のディプロマポリシー】						
	○	1. 生命科学・薬学に関する諸問題を認識し、これらの問題に研究者・技術者として柔軟に取り組むことができる。					
		2. 特別研究、特別講読を通して、研究者・技術者として問題解決能力やコミュニケーション能力を修得している。					
	○	3. 生体物質の構造と機能に関する高度な知識と研究力、生命科学および薬学に関する深い理解と技術、研究能力を修得している。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
講義内容を理解し、講義終了後に要点を説明できる。	講義内容を理解すると共に、自身が学部教育で学んできた学際領域の観点から問題点や今後の課題を見出し、討論できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加	○	○	○	○			100%

課題、評価のフィードバック	
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	漢方医薬学概説	漢方薬・漢方医学の特徴について解説するとともに現代医療における役割について解説する。	
	第2回	医食同源、薬食同源	医食同源の意味、歴史的背景について解説するとともに現代科学的観点から解説する。	
	第3回	漢方に学ぶ 一季節の養生一	季節毎の養生法を漢方医学の古典から読み解くとともに、現代科学的観点から解説する。	
	第4回	漢方に学ぶ 一高齢者の食養一	高齢者の食養生を漢方医学の古典から読み解くとともに、現代科学的観点から解説する。	
	第5回	腸管免疫と漢方薬	漢方薬の薬効発現における腸管免疫、粘膜免疫の役割を説明する。	
	第6回	生薬中の多糖成分	漢方薬のエキス中に含まれる多糖成分の役割について解説する。	
	第7回	生薬の複合効果	生薬の組み合わせによって発揮される薬効について説明する。	
	第8回	演習	関連論文を読み、その内容を説明する。	
	第9回	薬物の製剤と体内動態の概説	薬物の製剤化方法と体内動態について概説する。	
	第10回	製剤化のサイエンス	剤形と基礎理論について説明する。	
	第11回	製剤化と製剤試験	製剤化の方法と製剤の試験方法について解説する。	
	第12回	薬物送達システム(DDS)	薬物送達システムの基礎と応用について説明する。	
	第13回	薬物の生体内運命	薬物の投与経路および体内移行と変化について説明する。	
	第14回	薬物相互作用	薬物間相互作用および薬物と飲食物の相互作用を臨床面から解説する。	
	第15回	演習	最新の薬剤学に関する論文を読み、内容を解説する。	
	試験	試験は特に行わない。		
授業の進め方		適宜、ディスカッションの時間を設けながら講義中心に行う。		
授業外学習の指示		生命科学領域の広範囲な内容を講義するため、事前学習は必須である。講義終了時に、次回の講義までに予習すべき内容を指示する。 （授業外学習時間： 毎週 90 分）		

教科書	
参考書	
参考URLなど	
その他	必要な資料は、配付する。一部、manab@を用いた配付方法も併用する。